

● 構成メンバー

低侵襲医療研究室は、当院の外科系各診療科(外科 泌尿器科 心臓血管外科 小児外科 耳鼻咽喉科 産婦人科 腎移植外科 脳神経外科 麻酔科 呼吸器外科 眼科 皮膚科 整形外科)で構成されている。

● 活動状況

1. 当研究室では内視鏡手術の専門医(日本内視鏡外科学会技術認定取得者)を多数配し、安全・安心な内視鏡手術の実践に努めている。
2. さらに、手術機材の工夫・手術材料の選択等により、患者さんへの負担の少ない医療を実現している。
3. 当研究室は、近隣地域からの受診にとどまらず県内・県外から多数の患者さんが受診し、地域医療のみならず所属している学会を主導している診療科も複数科あり、活発な研究活動を行っている。論文、学会報告等は各診療科ページを参照されたいが、2021年11月に整形外科 竹内一裕整形外科医長が第24回日本低侵襲脊椎外科学会を東京で開催したことを報告しておく。
4. 低侵襲手術例は具体的には泌尿器科が経尿道的尿路結石除去術を62例、腹腔鏡視下手術を48例、経尿道的膀胱・前立腺手術を139例行っている。

産婦人科は内視鏡視下手術を年間19例施行し、皮膚科も低侵襲手術を3例行っている。

小児外科は胸腔鏡3例、腹腔鏡(後を含め)103例、膀胱鏡19例、後腹膜鏡下2例と多くの内視鏡下手術を行っている。心臓血管外科も胸腔鏡を用いて小開胸下に弁膜症、冠動脈手術が年間約10例行われている。胸部外科が胸腔鏡手術年間約120例、一般外科が内視鏡年間307例と整形外科では内視鏡ヘルニア摘出術が年間約110例、ナビゲーションシステム脊椎手術が約40例、骨盤輪損傷に対するコンピュータ補助によるナビゲーションシステム内固定術が約20例行われている。このように、当室の診療科は「外保連(外科系学会社会保険委員会連合)手術指数」による手術技術度の高い手術を多く行うことにより、当院がDPCⅡ群病院であることに大きく貢献をしている。

● 研究業績

当院の各診療科のページや診療科独自のホームページをご参照ください。